

令和7年度卒業生学修成果振り返りアンケート結果

令和8年7月21日
企画課

1

0 調査概要

1. 趣旨

本調査は、文部科学省の「全国学生調査」と本学独自の設問を統合し、卒業予定者を対象に実施したもの。学生自身が在学中の学びや成長を客観的に振り返り、自己の学修成果を把握することを目的としている。また、得られた回答を全学的に分析・可視化することで、本学の教育の質向上および教育改善に向けた基礎資料として活用する。

2. 実施方法・調査項目等

- | | |
|----------|---|
| (1) 名称 | 学修成果振り返りアンケート |
| (2) 実施形態 | Web形式。非匿名（ユーザー名を記録して回答と共に表示）で回答。 |
| (3) 実施期間 | 令和8年1月13日～3月19日 |
| (4) 実施方法 | 授業支援システムで実施 |
| (5) 質問項目 | 設問数は選択式43問、自由記述1問（概ね5分程度の回答時間を想定）
※うち文部科学省の設問は33問、独自設問は11問 |

【主な質問項目】

- ・授業方法に関する質問
- ・大学での経験の有用度に関する質問
- ・大学で身についた能力に関する質問
- ・学修意識、教育の評価に関する質問
- ・2025年度後期の1週間の生活時間に関する質問
- ・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に関する質問
- ・本学での経験に関する質問・本学の推奨度に関する質問

1 基本情報

項目	令和7年度	令和6年度 (学修成果振り返り アンケート)	令和6年度 (全国学生調査)
対象者数(名)			
環境学部	145	142	169
経営学部	143	133	158
回答者数(名)			
環境学部	105	99	87
経営学部	108	104	83
回答率(%)			
環境学部	72.4	69.7	51.4
経営学部	75.5	78.2	52.5
合計回答率	74.0	73.8	51.9

2026/7/17

3

2 結果概要

大学で身に付いた力

「専門分野に関する知識・理解」が肯定的回答が最も高く94.3%（平均値3.2）。一方で「外国語を使う力」「数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能」は平均値2.6と最も低い数値であった。

学修意識、教育の評価「講義の受講や自身の研究に力を注いだ」の肯定的回答は92.9%（平均値3.3）に上った。また「大学の学びによって成長を実感した」と回答した学生が92.9%、平均値3.3と高い成長実感を示している。「教員の熱意」に対する肯定的な回答も87.3%（平均値3.1）と高評価であった。

大学生活の経験

本学に進学したことに対する総合的な満足度は94.3%、平均値3.5と高い数字を維持。「卒業後も付き合える友人と出会った」の肯定的回答も約89%に達した。また、「クラブ・サークル活動」の肯定的な回答が9.2ポイント大幅に増加。

ディプロマ・ポリシー（DP）の理解度

内容も含めて理解している学生は18.8%で、前年度卒業生（31.0%）と比較して12.2ポイント低下し、「存在自体知らなかった」層が増加。

大学推奨度（NPS）

大学全体のNPS値は、1.4で、前年度卒業生（-8.9）と比較して10.3ポイント増加。

2026/7/17

4

3-1 授業方法に関する質問

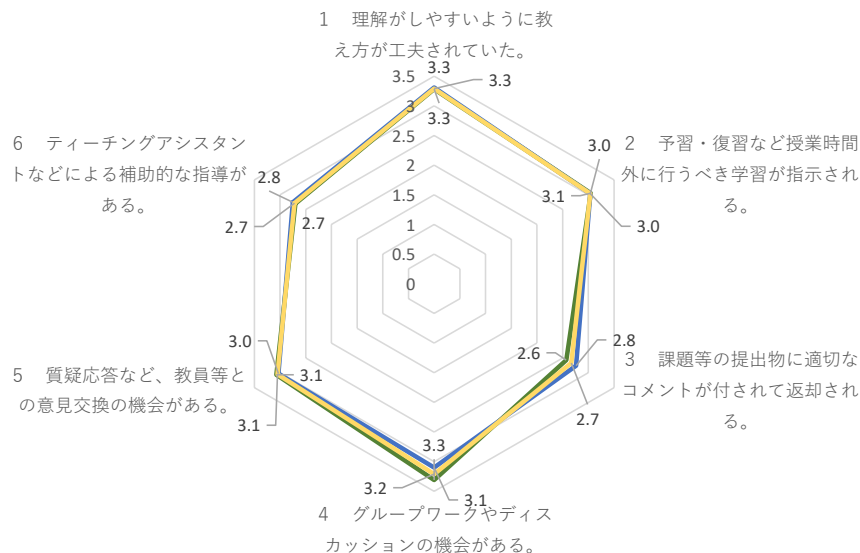
最も高評価だったのは「Q1 教え方の工夫」。肯定的な意見が93.4%を占め、平均値は3.3前年度と比較して肯定的な意見が約4ポイント減少しているが、高評価を維持。最も評価が低いのは「Q3 課題コメント」。前年度と比較して肯定的な意見が約11ポイント減少。

問1.大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどれくらいありましたか。

平均値：よくあった「4」、ある程度あった「3」、あまりなかった「2」、なかった「1」として算出。

学部別

環境学部 経営学部 全体



2026/7/17

5

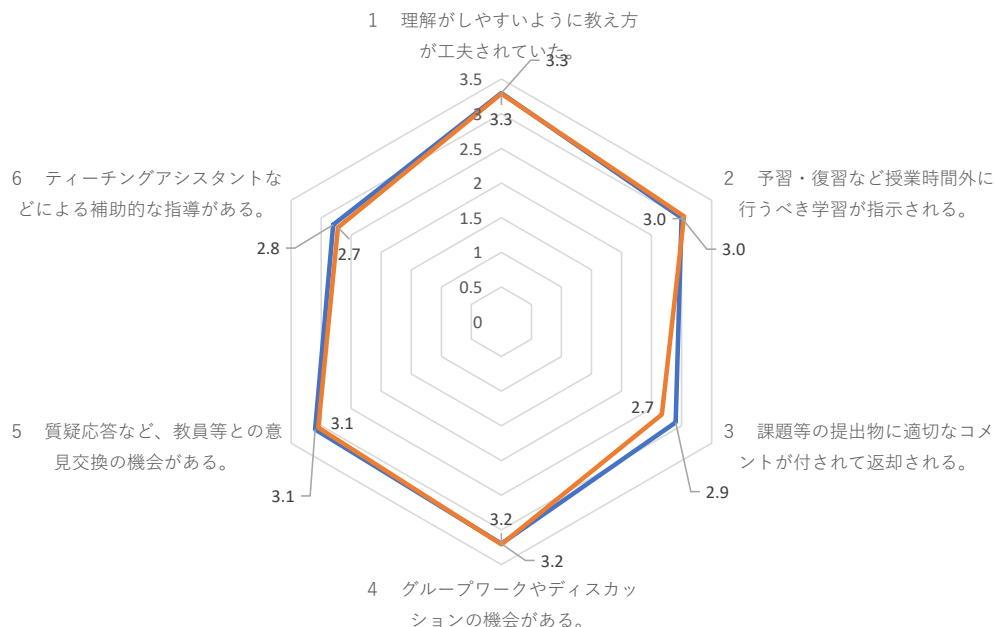
3-2 授業方法に関する質問

問1.大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどれくらいありましたか。

平均値：よくあった「4」、ある程度あった「3」、あまりなかった「2」、なかった「1」として算出。

全体

2024 2025



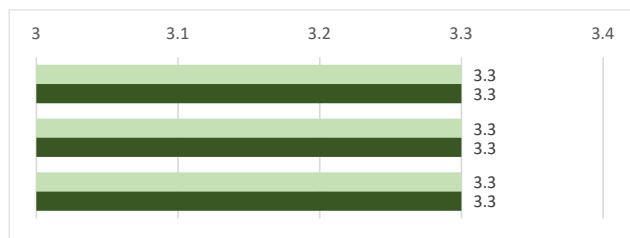
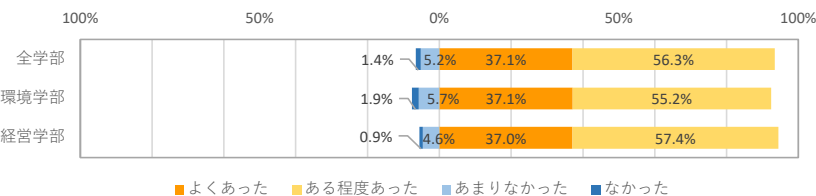
(注) 2024年度は「全国学生調査」のデータ

2026/7/17

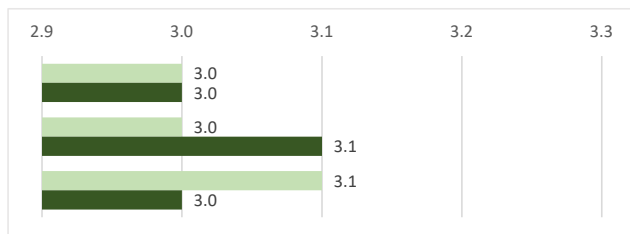
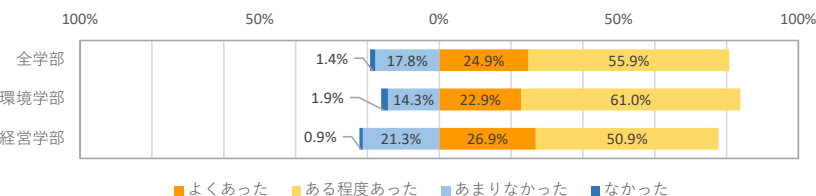
6

3-3 授業方法に関する質問

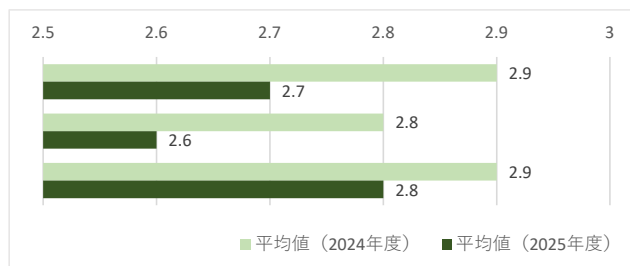
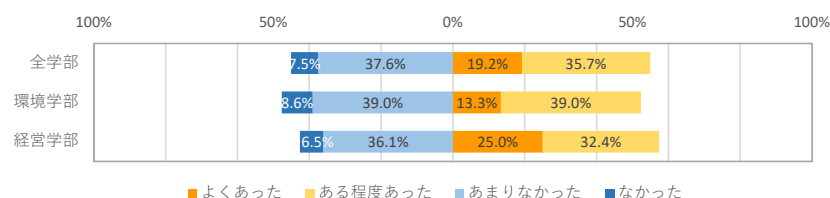
Q1 理解がしやすいように教え方が工夫されていた。



Q2 予習・復習など授業時間外に行うべき学習が指示される。



Q3 課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される。



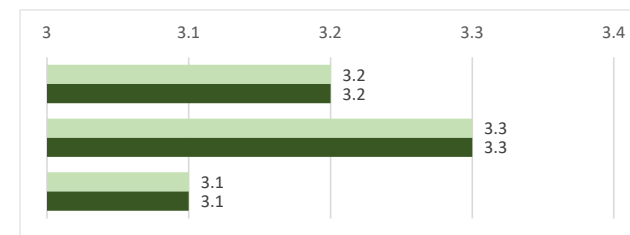
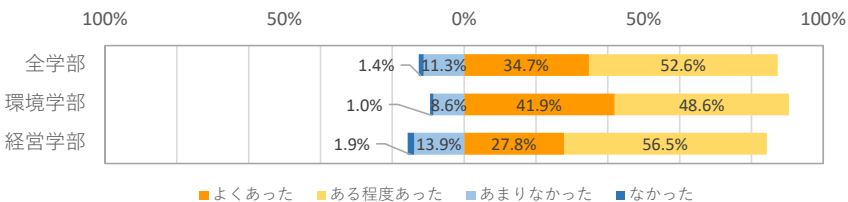
(注) 2024年度は「全国学生調査」のデータ

2026/7/17

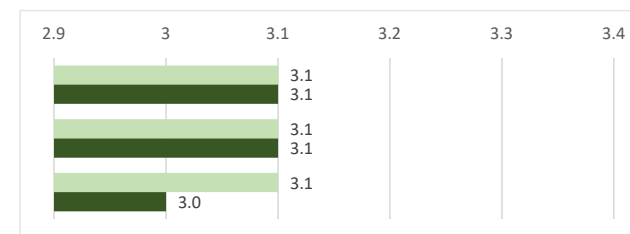
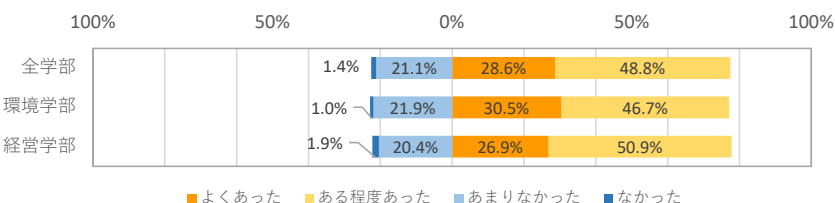
7

3-4 授業方法に関する質問

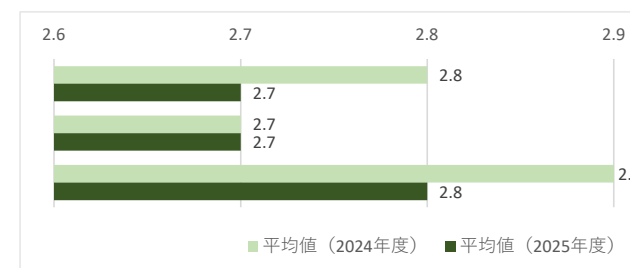
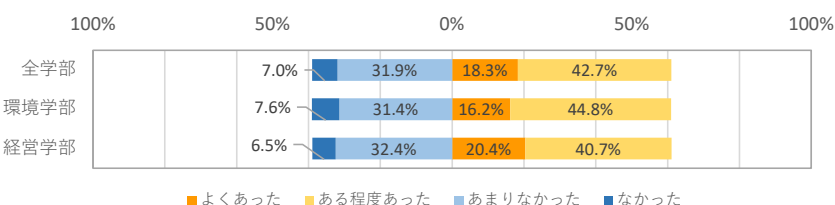
Q4 グループワークやディスカッションの機会がある。



Q5 質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある。



Q6 ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある。



(注) 2024年度は「全国学生調査」のデータ

2026/7/17

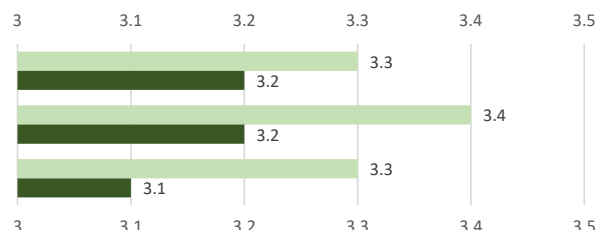
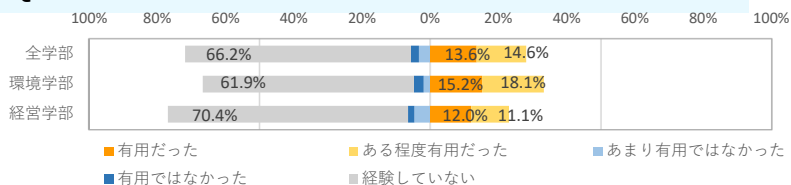
8

4 大学での経験の有用度に関する質問

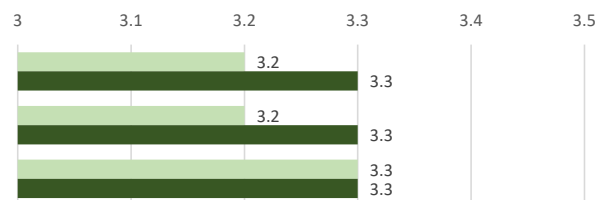
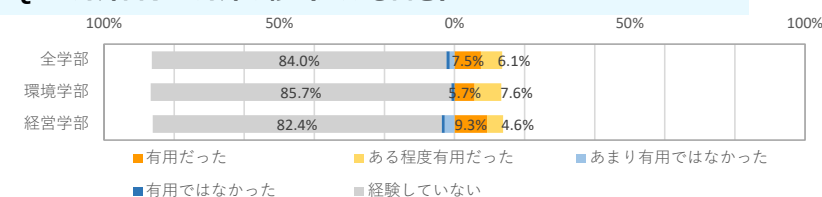
経験者が最も多いのはQ9（英語授業履修）：全体の約75%が経験あり、そのうち58.7%が「有用だった」と評価。インターンシップ（Q7）経験者は約3割。海外研修（Q8）は最も経験率が低く、未経験者は全体の約84%。

平均値：有用だった「4」、ある程度有用だった「3」、あまり有用ではなかった「2」、有用ではなかった「1」として、経験していない者を母数から除いた上で算出。

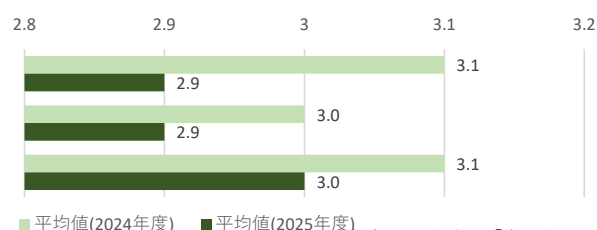
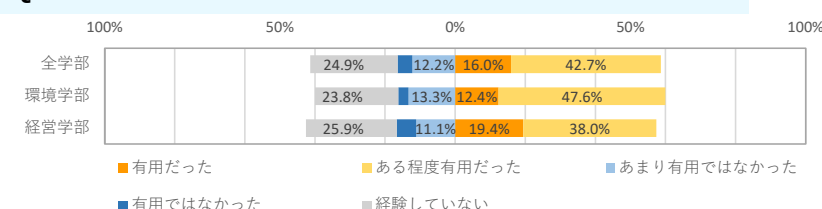
Q7 インターンシップ（5日間以上）



Q8 海外留学・海外研修（短期も含む）



Q9 主に英語で行われる授業の履修（語学科目を除く）



(注) 2024年度は「全国学生調査」のデータ

2026/7/17

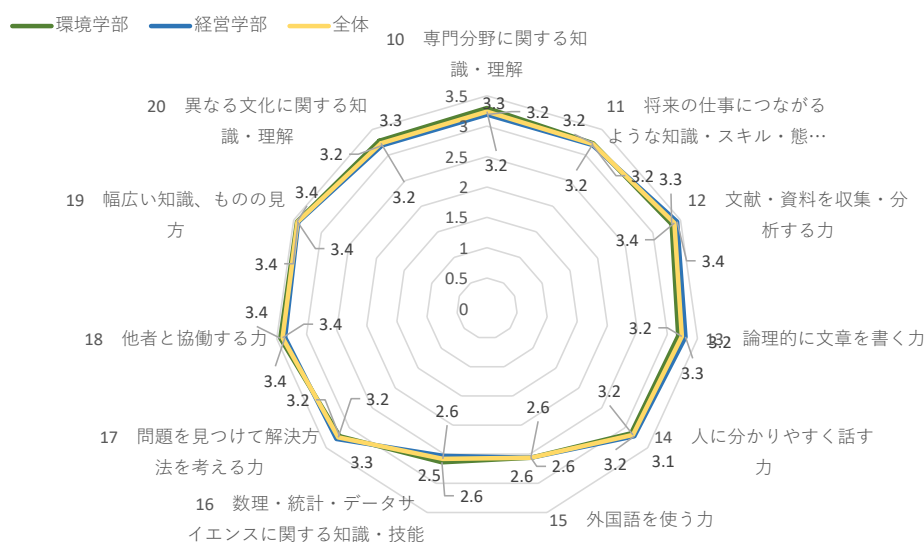
9

5-1 大学で身についた能力に関する質問

最も高い評価は、「Q10専門分野に関する知識・理解」で肯定的な回答が94.3%（前年度約95%）。最も高い平均値は「Q12文献・資料の収集・分析力」で3.4。最も低い評価は「Q15外国語力」で肯定的な回答が51.6%（前年度約52%）最も低い平均値は「Q16数理・統計・データサイエンスの知識・技能」で2.6。「Q16数理・統計・データサイエンスの知識・技能」は前年比で肯定的な回答が6.3ポイント減少。その他は前年と大きな変化はなし。

問3. 大学教育を通じて、次のような知識や能力などが身に付いたと思いますか。

平均値：身に付いた「4」、ある程度身に付いた「3」、あまり身に付いていない「2」、身に付いていない「1」として算出。



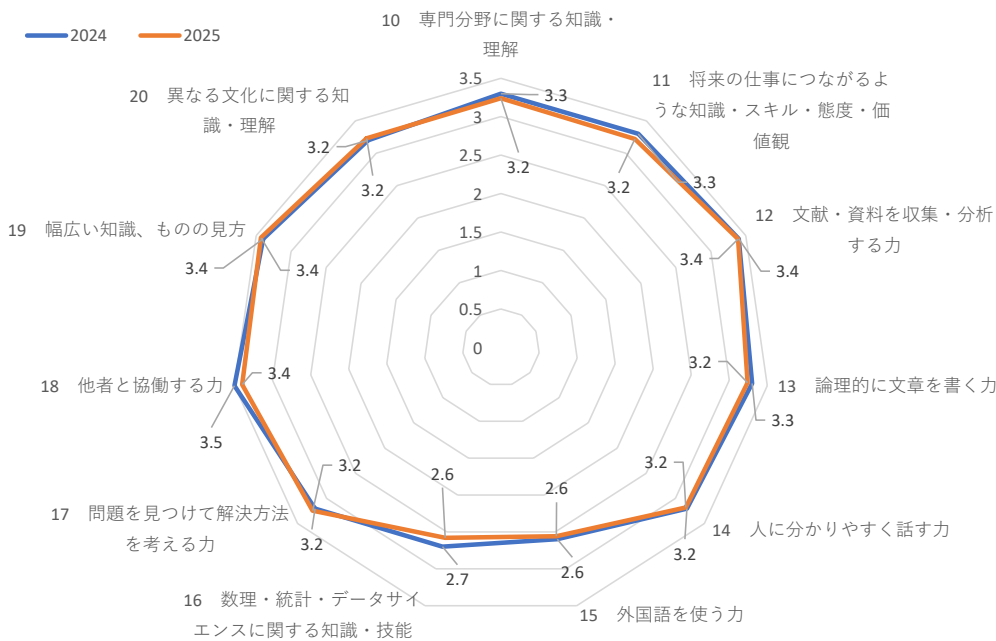
2026/7/17

10

5-2 大学で身についた能力に関する質問

問3. 大学教育を通じて、次のような知識や能力などが身に付いたと思いますか。

平均値：身に付いた「4」、ある程度身に付いた「3」、あまり身に付いていない「2」、身に付いていない「1」として算出。



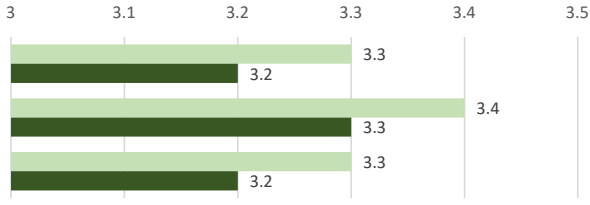
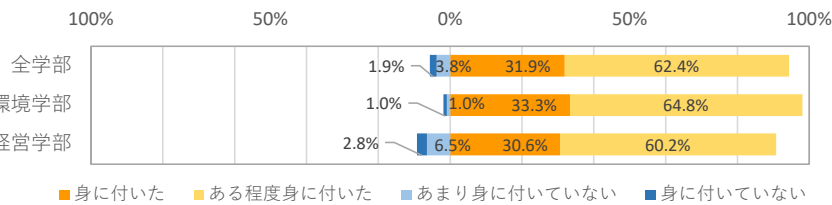
(注) 2024年度は「全国学生調査」のデータ

2026/7/17

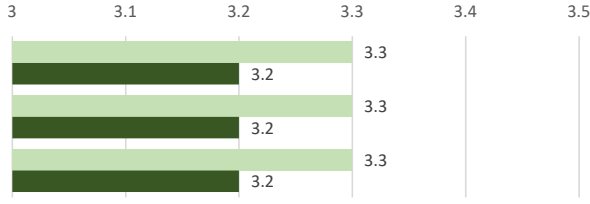
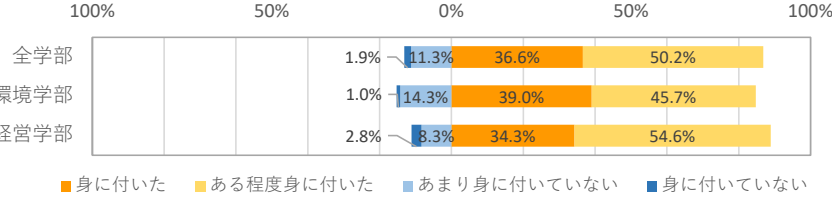
11

5-3 大学で身についた能力に関する質問

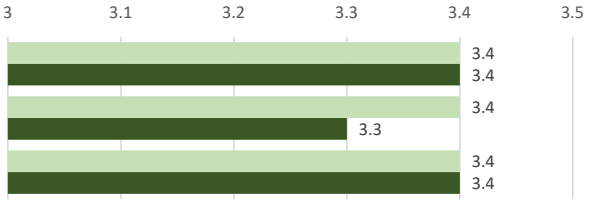
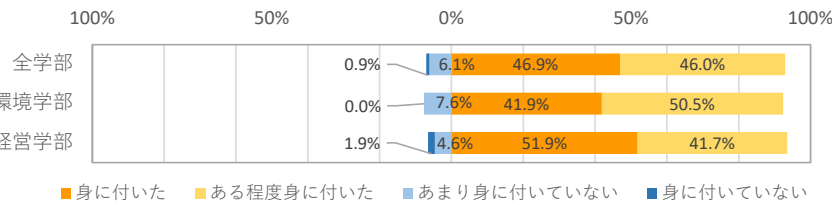
Q10 専門分野に関する知識・理解



Q11 将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観



Q12 文献・資料を収集・分析する力



■ 平均値(2024年度) ■ 平均値(2025年度)

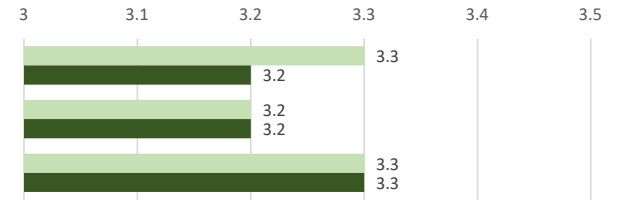
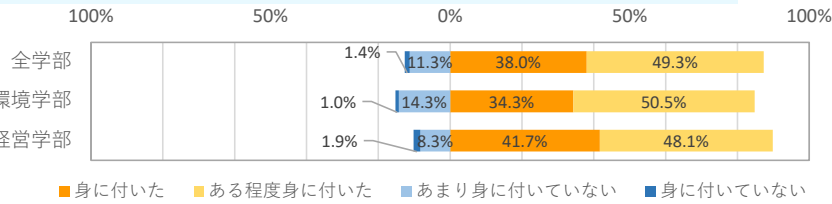
(注) 2024年度は「全国学生調査」のデータ

2026/7/17

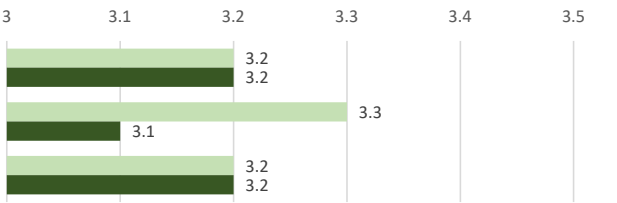
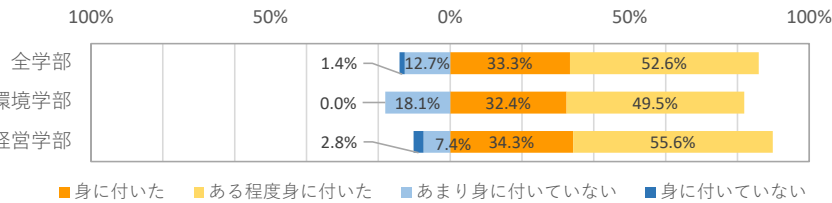
12

5-4 大学で身についた能力に関する質問

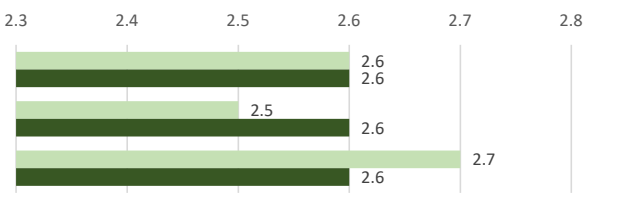
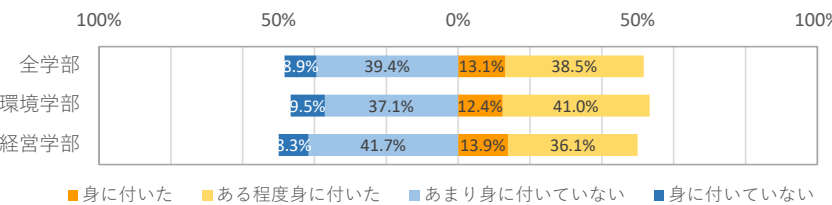
Q13 論理的に文章を書く力



Q14 人に分かりやすく話す力



Q15 外国語を使う力



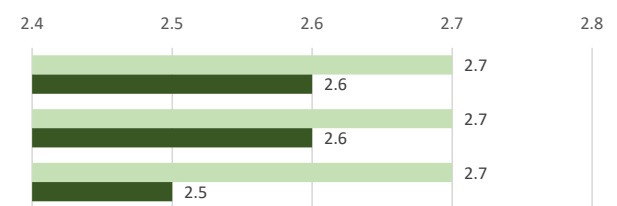
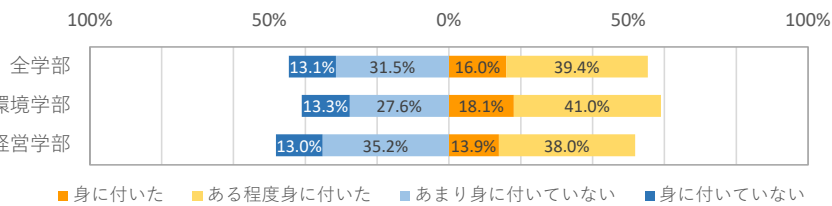
(注) 2024年度は「全国学生調査」のデータ

2026/7/17

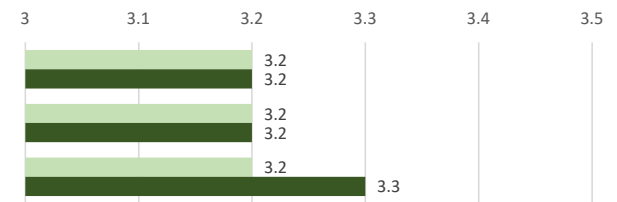
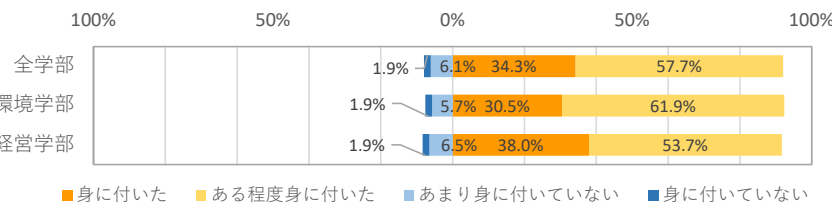
13

5-5 大学で身についた能力に関する質問

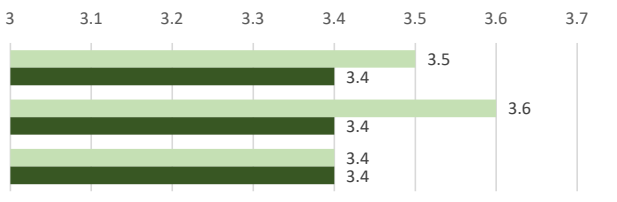
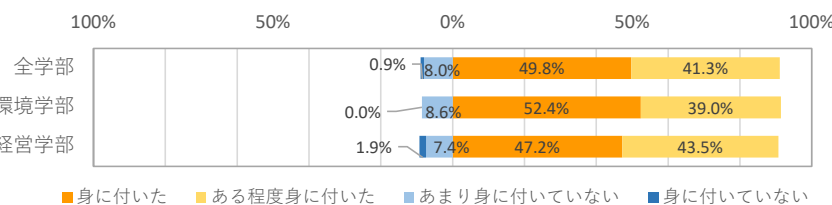
Q16 数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能



Q17 問題を見つけて解決方法を考える力



Q18 他者と協働する力



■ 平均値(2024年度) ■ 平均値(2025年度)

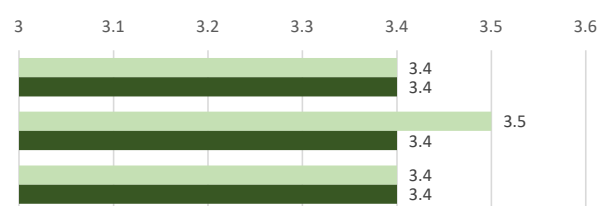
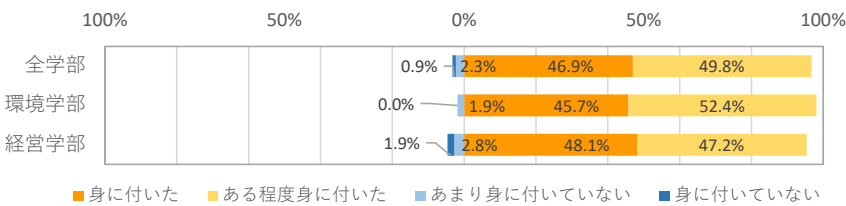
(注) 2024年度は「全国学生調査」のデータ

2026/7/17

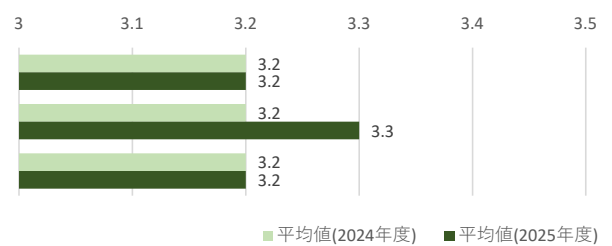
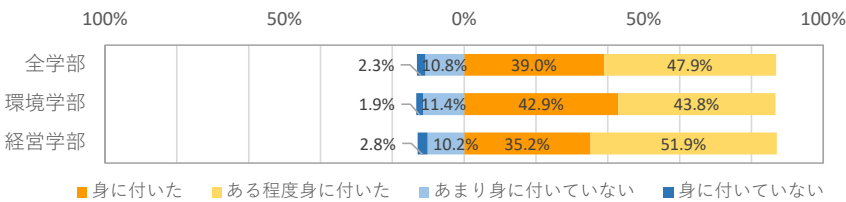
14

5-6 大学で身についた能力に関する質問

Q19 幅広い知識、ものの見方



Q20 異なる文化に関する知識・理解



(注) 2024年度は「全国学生調査」のデータ

2026/7/17

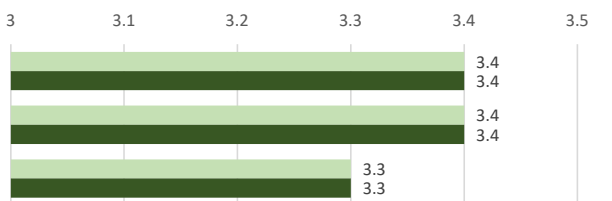
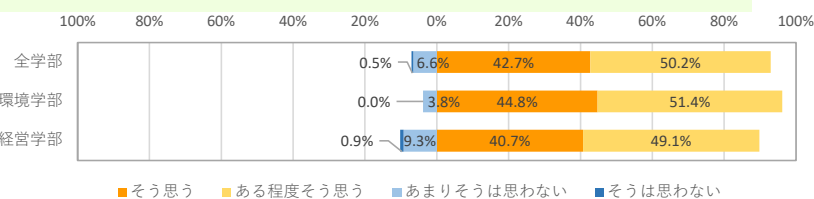
15

6-1 学修意識、教育の評価に関する質問

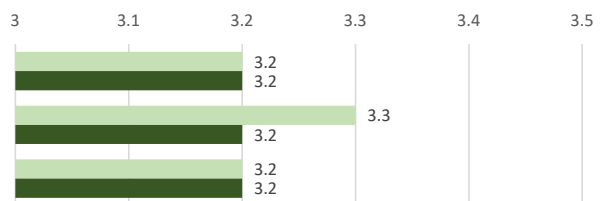
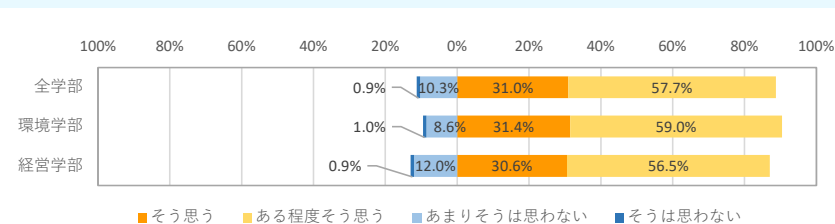
自己評価が高いのは、「Q21 講義や研究への注力」「Q25成長実感」で肯定的な回答が92.9%。「Q25成長実感」は前年度比2.9ポイント増加。「Q23 アンケートによる改善実感」は肯定的回答が67.2%と最も低く前年度比4ポイント減少。

平均値：そう思う「4」、ある程度そう思う「3」、あまりそうは思わない「2」、そうは思わない「1」として算出。

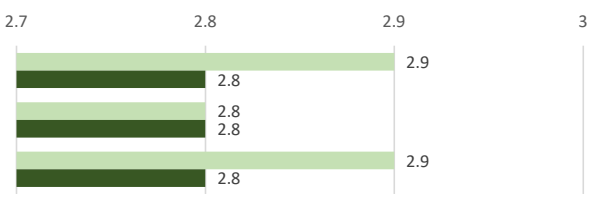
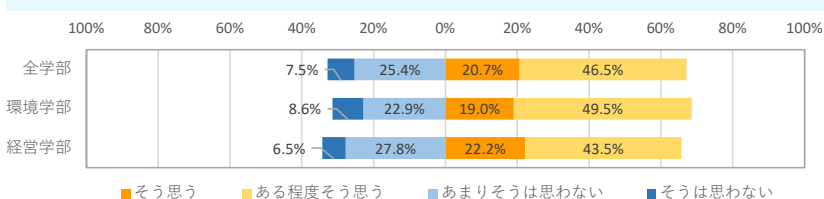
Q21 講義の受講や自身の研究に力を注いだ。



Q22 卒業時まで身に付けるべき知識や能力を意識して学修している。



Q23 授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。



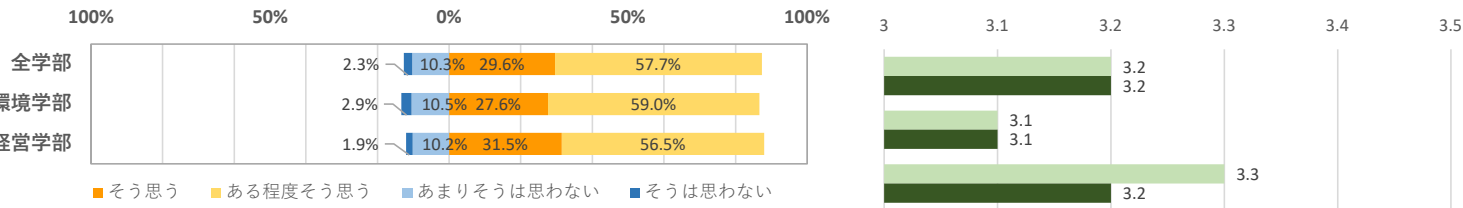
(注) 2024年度は「全国学生調査」のデータ

2026/7/17

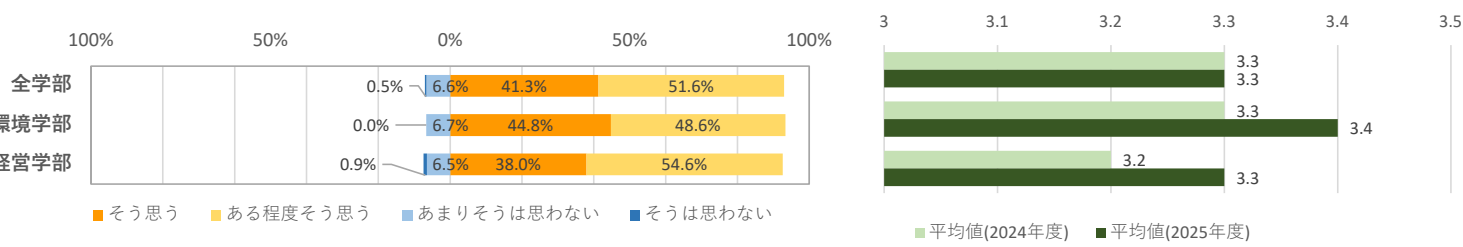
16

6-2 学修意識、教育の評価に関する質問

Q24 教職員が熱心に教育に取り組んでいる。



Q25 大学の学びによって成長を実感している。



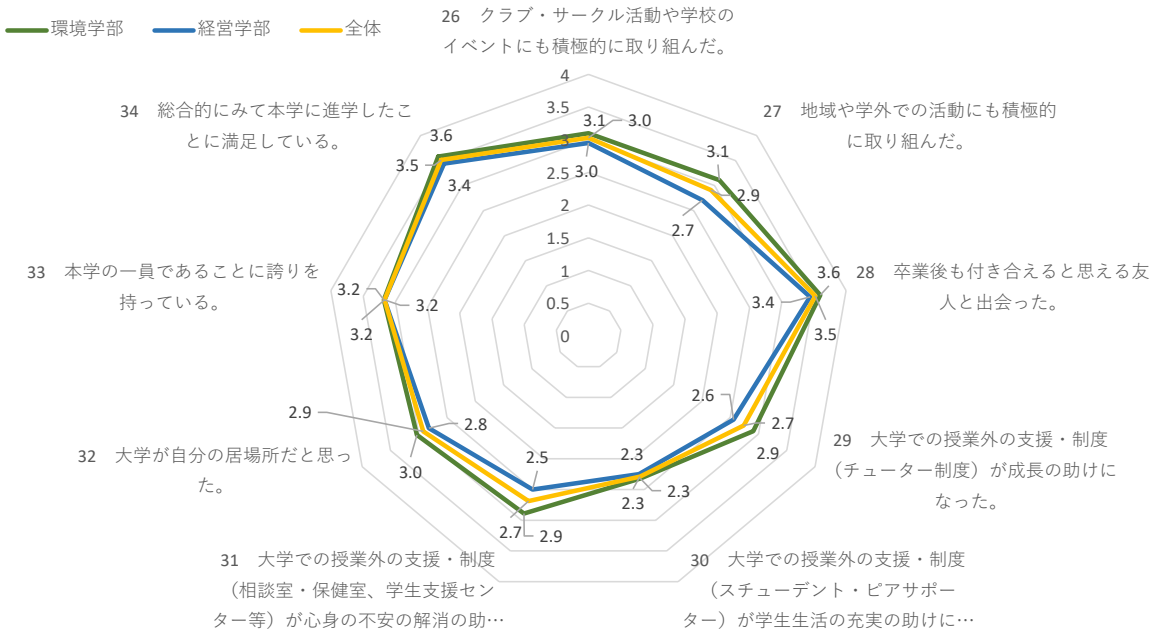
(注) 2024年度は「全国学生調査」のデータ

7-1 本学での経験に関する質問

最も評価が高かったのは「Q34総合的にみて本学に進学したことを満足している」で94.3%が肯定的な回答。次いで、「Q28友人関係」は89%、「Q33本学への誇り」は84%が肯定的な回答であった。前年度と比べて肯定的回答が増加しているのは「Q26クラブ・サークル活動」（9.2ポイント増）、「Q27地域・学外活動」（4.6ポイント増）。

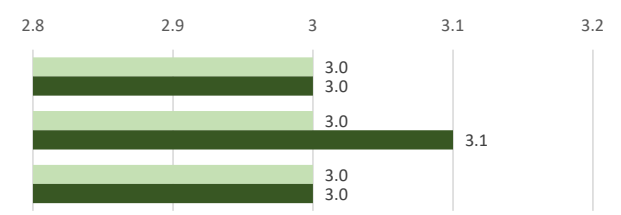
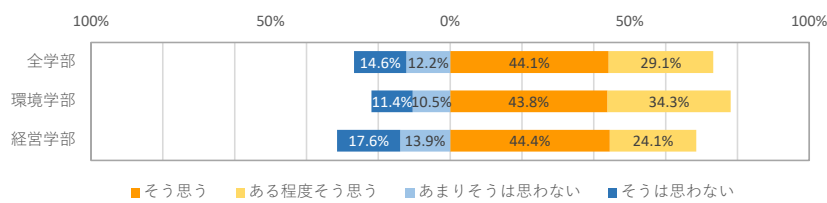
問5 本学での経験に関する以下の質問に答えてください。

平均値：そう思う「4」、ある程度そう思う「3」、あまりそう思わない「2」、そう思わない「1」として算出。

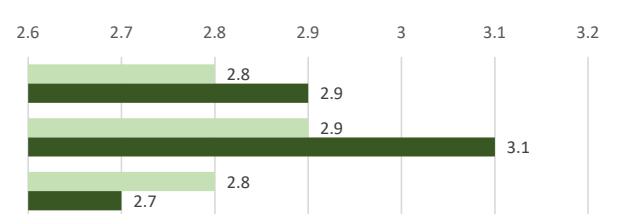
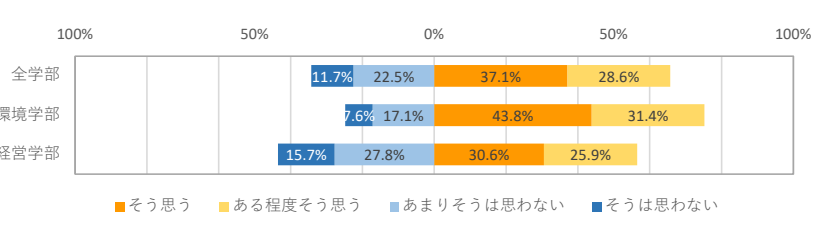


7-2 本学での経験に関する質問

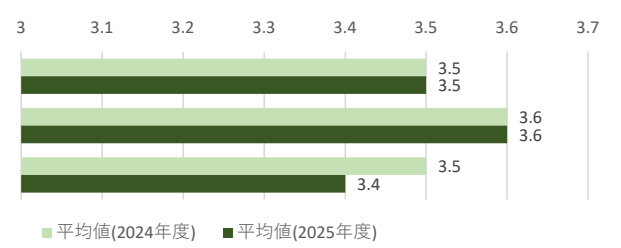
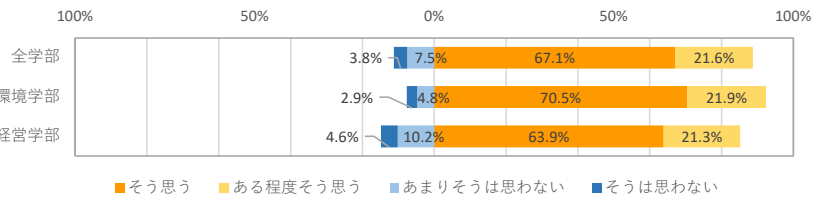
Q26 クラブ・サークル活動や学校のイベントにも積極的に取り組んだ。



Q27 地域や学外での活動にも積極的に取り組んだ。



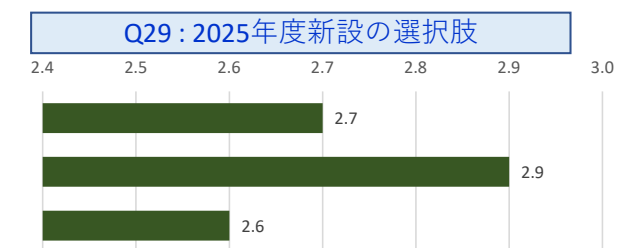
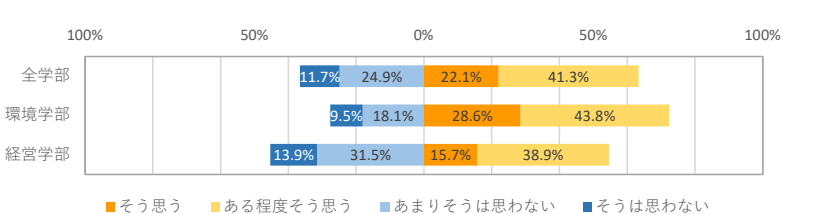
Q28 卒業後も付き合えると思える友人と出会った。



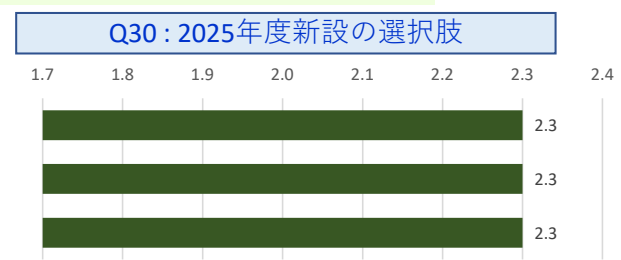
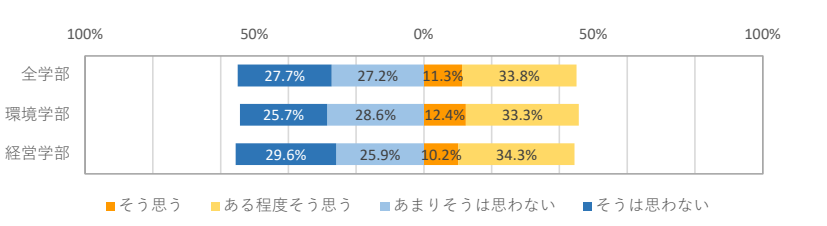
(注) 2024年度は「学修成果振り返りアンケート」のデータ

7-3 本学での経験に関する質問

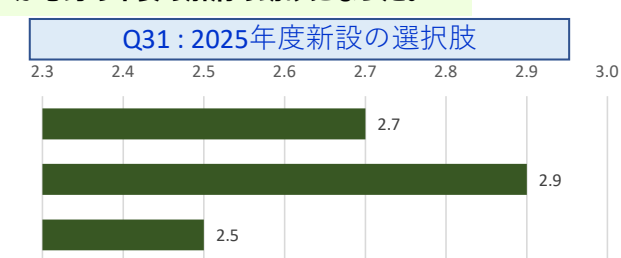
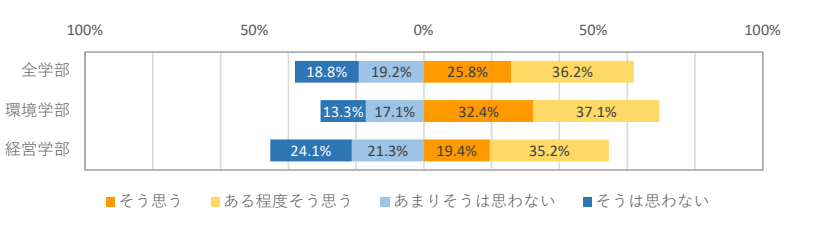
Q29 大学での授業外の支援・制度（チューター制度）が成長の助けになった。



Q30 大学での授業外の支援・制度（スチューデント・ピアサポーター）が学生生活の充実の助けになった。

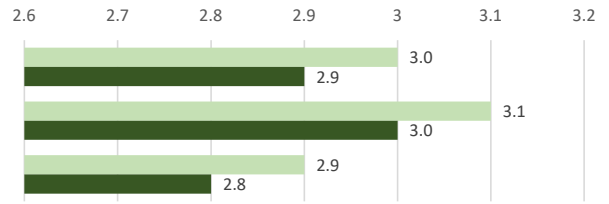
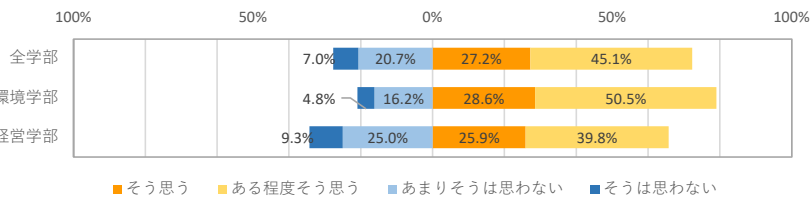


Q31 大学での授業外の支援・制度（相談室・保健室、学生支援センター等）が心身の不安の解消の助けになった。

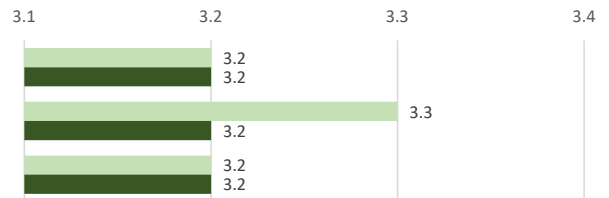
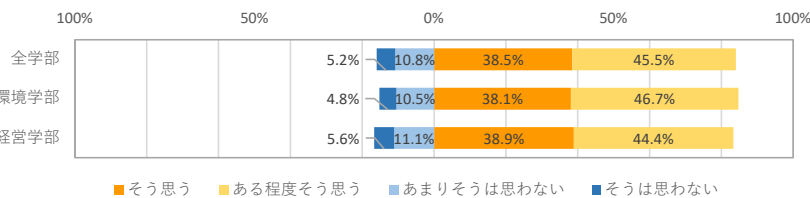


7-4 本学での経験に関する質問

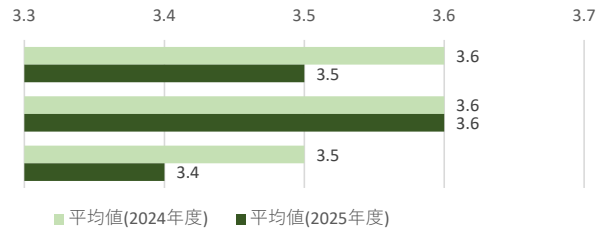
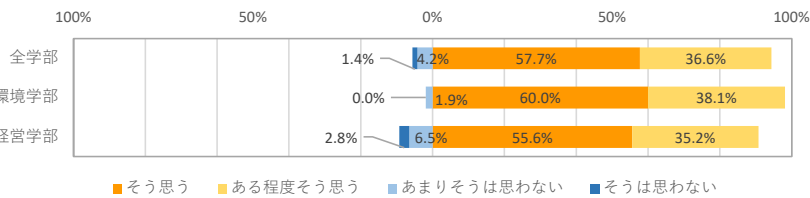
Q32 大学が自分の居場所だと思った。



Q33 本学の一員であることに誇りを持っている。



Q34 総合的にみて本学に進学したことに満足している。



(注) 2024年度は「学修成果振り返りアンケート」のデータ

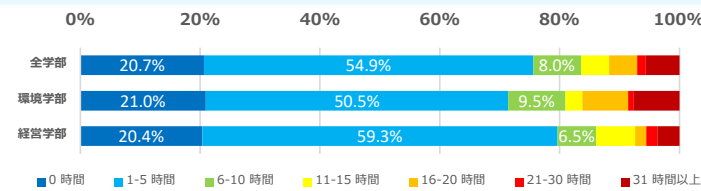
2026/7/17

21

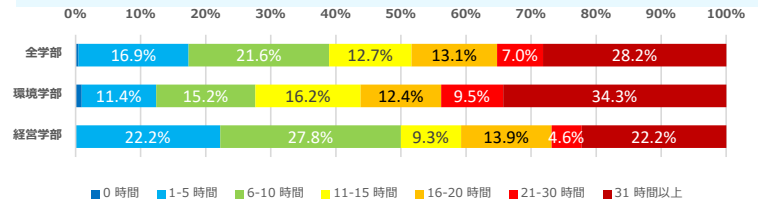
8 2025年度後期の1週間の生活時間に関する質問

約 8 割が週1時間以上授業に出席(Q35) しているが、約 8 割の学生の予習・復習・課題に充てる時間(Q37)は週 5 時間未満。全体の 6 割が週10時間以上のアルバイトに従事。

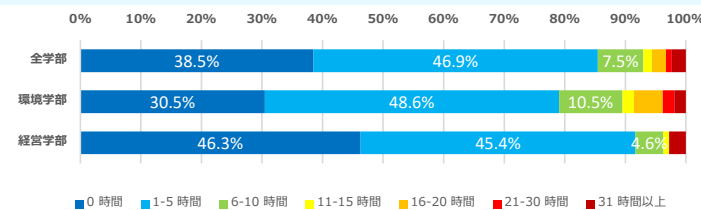
Q35 授業への出席（実験・実習、オンライン授業を含む）



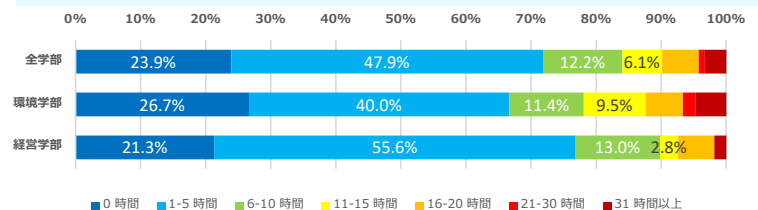
Q36 卒業論文・卒業研究・卒業制作（4年生のみ）



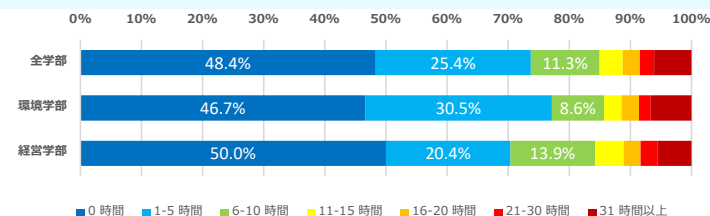
Q37 予習・復習・課題など授業に関する学習（卒業論文等は除く）



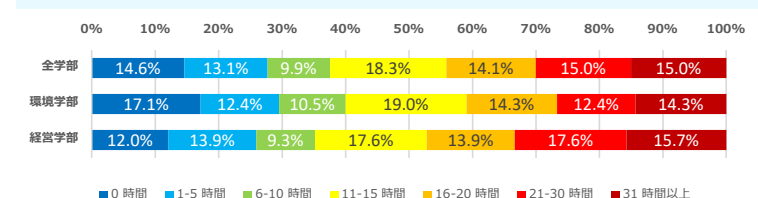
Q38 授業と直接関係しない自主的な学習



Q39 部活動／サークル活動



Q40 アルバイト／定職



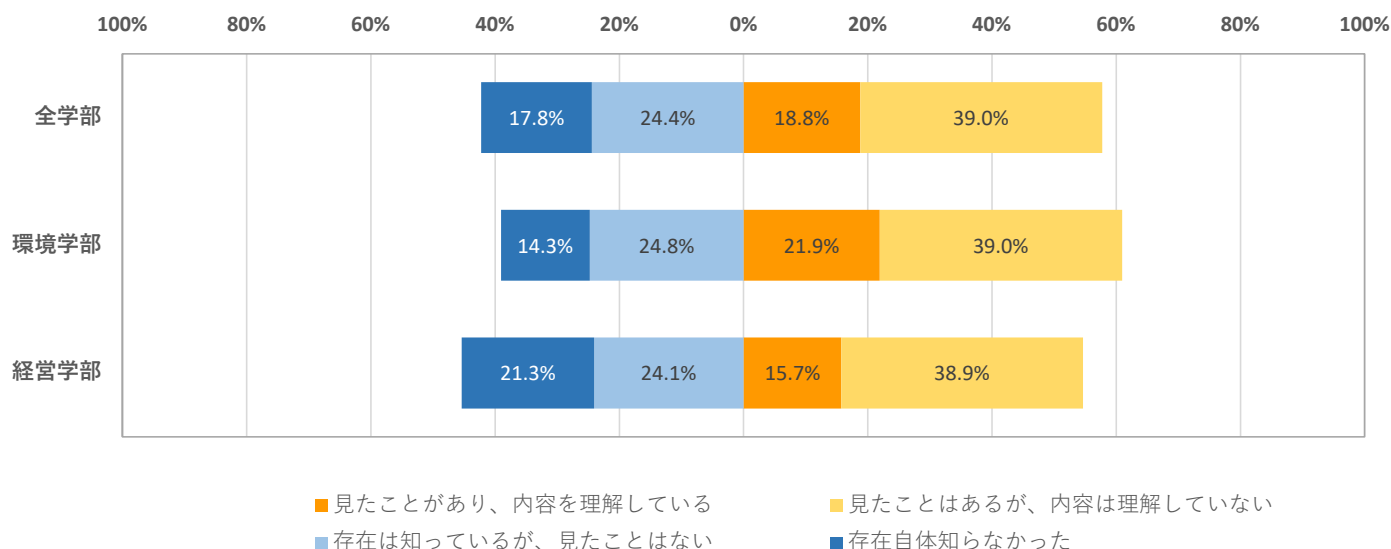
2026/7/17

22

9-1 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に関する質問

内容を理解している学生は全体の18.8%に留まり、前年度比12.2ポイント大きく減少。「見たことはない」「存在自体知らない」学生が全体の42.2%を占めた。

Q41 あなたは、本学が定める学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の内容を知っていますか。

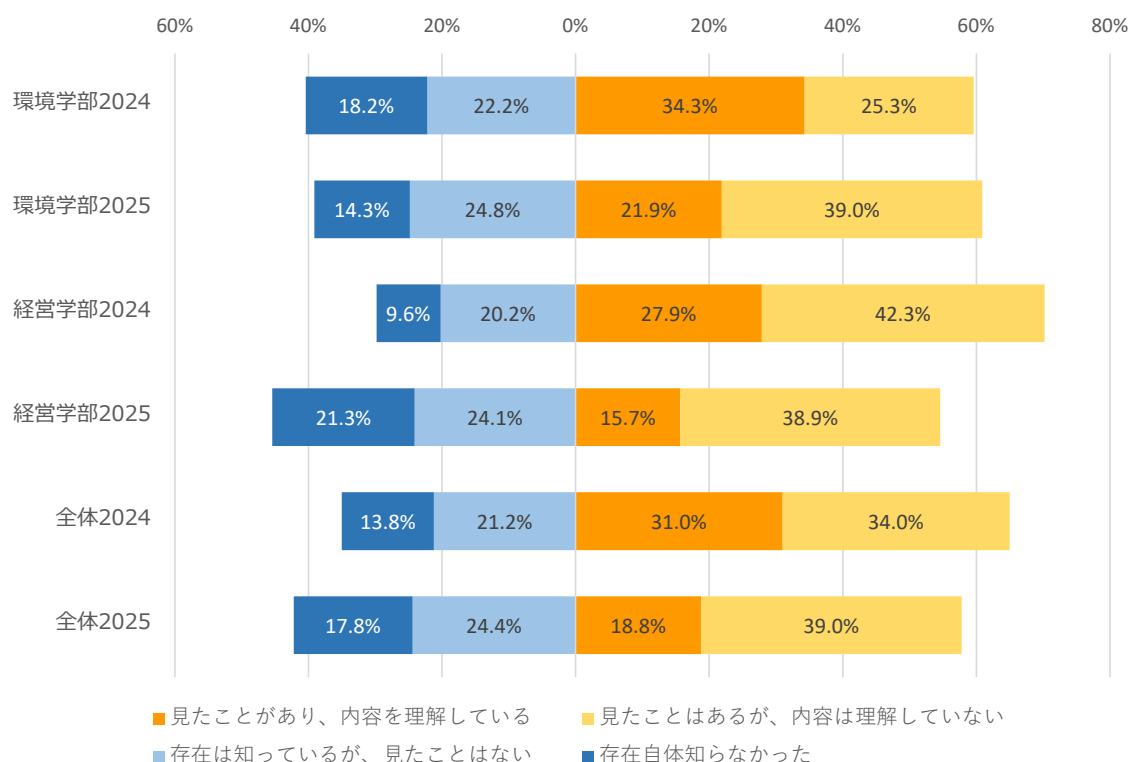


2026/7/17

23

9-2 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に関する質問

「見たことがあり、内容を理解している」と答えた全体の割合は、約12ポイント減少。「存在自体知らなかった」と答えた全体の割合は増加。



（注）2024年度は「学修成果振り返りアンケート」のデータ

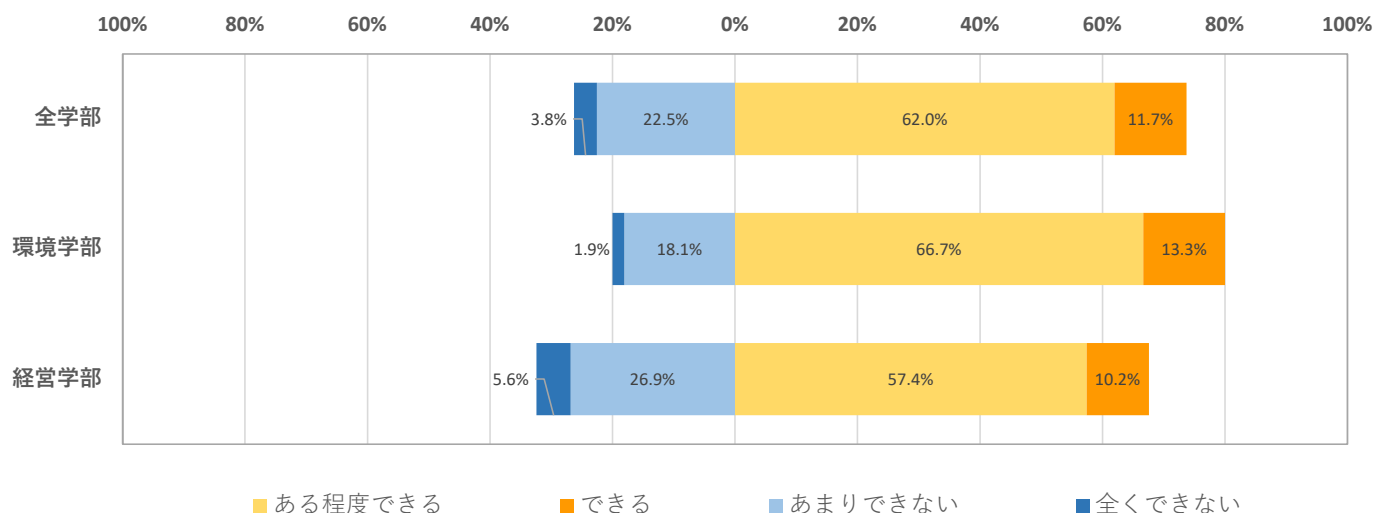
2026/7/17

24

9-3 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に関する質問

73.7%の学生が「持続可能な社会づくりのための具体的な提案・実践ができる」「ある程度できる」と回答。肯定的な評価が前年度比9.1ポイント減少している。2024年度は「全くできない」と回答した学生は0%だったが、2025年度は3.8%。

Q.42 本学の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、「持続可能な社会づくりのための具体的な提案・実践ができるか」について、現時点でのあなたの状況を自己評価してください。

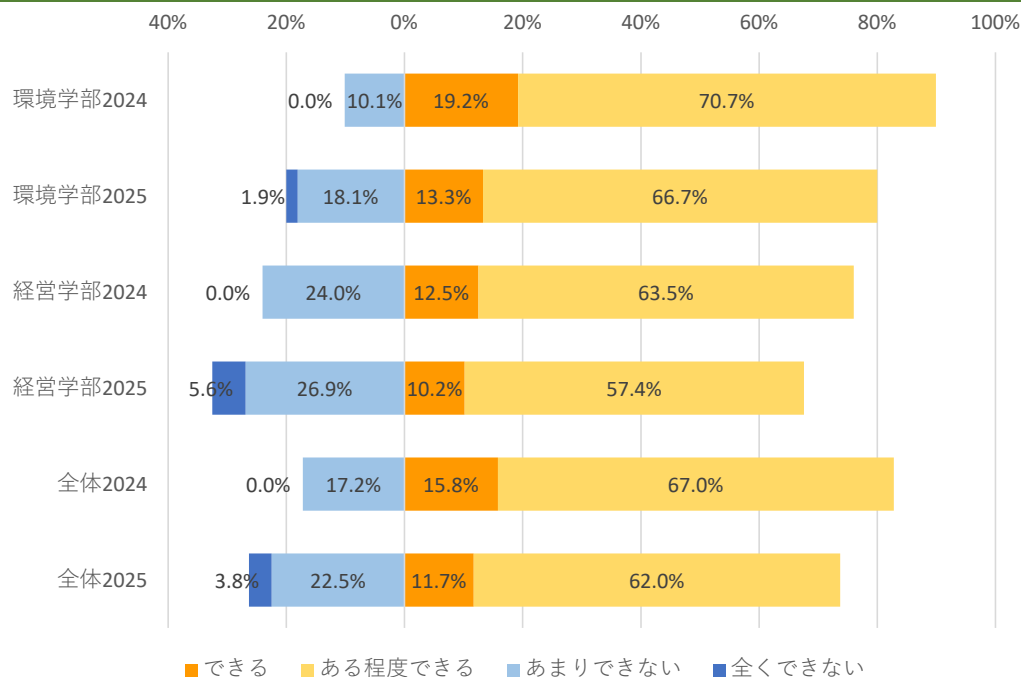


2026/7/17

25

9-4 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に関する質問

全体の7割以上の学生が「持続可能な社会づくりのための具体的な提案・実践ができる」または「ある程度できる」と肯定的に回答しているものの、2024年度から2025年度にかけて「できる」「ある程度できる」の割合が減少し、「できない」「あまりできない」の割合が増加している。



(注) 2024年度は「学修成果振返りアンケート」のデータ

2026/7/17

26

10-1 本学の推奨度に関する質問

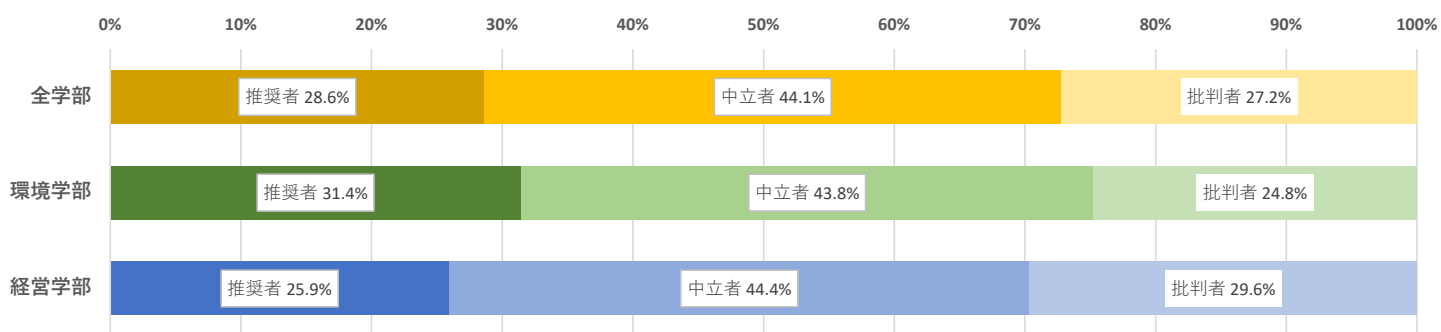
大学全体のNPS値（推奨者の割合－批判者の割合）は、1.4で、前年度卒業生（-8.9）と比較して10.3ポイント増加している。

Q.43 公立鳥取環境大学を友人や後輩などに勧めますか。（0～10から選んで回答）

回答は（勧めない）0. 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10（勧める）とし、9～10点を「推奨者」、7～8点を「中立者」、0～6点を「批判者」と分類。

学部名	有効回答者数	有効回答率	1. 推奨者		2. 中立者		3. 批判者		NPS値※	(参考：昨年度) NPS値
全学部	213	74%	61	28.6%	94	44.1%	58	27.2%	1.4%	-8.9%
環境学部	105	65%	33	31.4%	46	43.8%	26	24.8%	6.7%	-12.1%
経営学部	108	85%	28	25.9%	48	44.4%	32	29.6%	-3.7%	-5.8%

※推奨者の割合(%)－批判者の割合(%)



2026/7/17

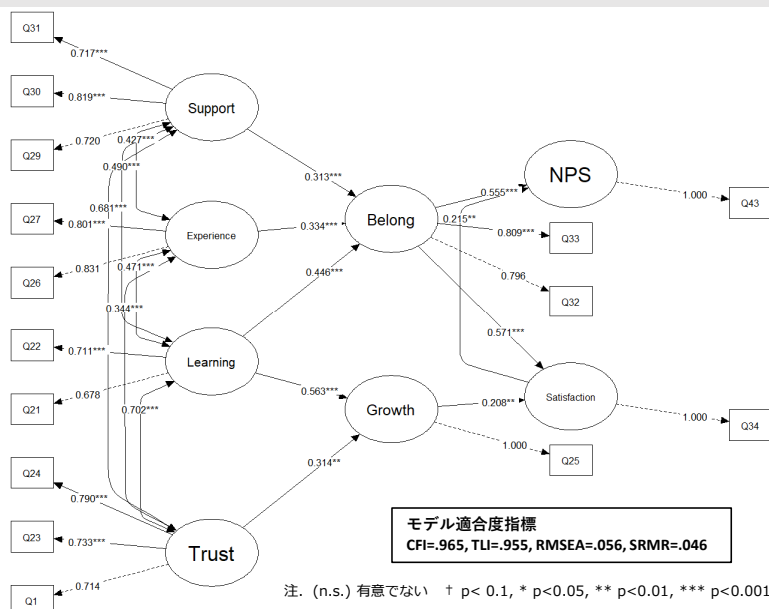
27

10-2 推奨度の要因分析

推奨度や満足度に至るまでに、2つ（成長実感、所属・誇り）のルートに整理できる。成長実感は、学修への主体的関与(Q21,22)、教育への信頼(Q1,23,24)が影響を与え、所属・誇りは、学修への主体的関与(Q21,22)、活動経験(Q26,27)、学生支援(Q29,30,31)が影響を与えている。

特に、学生が講義・研究に力を注ぎ、卒業時に身に付けるべき知識・能力を意識して学ぶことは、成長実感だけでなく、大学への所属感・誇りにもつながっている。

推奨度の要因を共分散構造分析（SEM）を用いて分析



○潜在変数・□観測変数

Trust（教育への信頼）

Q1:教え方が工夫されている

Q23:アンケートで改善

Q24:熱心に教育に取り組んでいる

Learning（学修関与）

Q21:講義・研究に注力

Q22:学修成果の意識

Experience（活動経験）

Q26:クラブ活動に注力

Q27:地域活動に注力

Support（学生支援）

Q29:チューター制度が成長の助け

Q30:ピアサポーターが充実の助け

Q31:相談室等が不安解消の助け

Belong（所属・誇り）

Q32:大学が居場所という意識

Q33:大学の一員として誇り

Satisfaction（満足度）

Q34:総合的な満足度

NPS（推奨意向）

Q43:推奨意向度

パス	標準化係数	p値
Support → Belong	.313	< .001
Experience → Belong	.334	< .001
Learning → Belong	.446	< .001
Trust → Growth	.314	.002
Learning → Growth	.563	< .001
Belong → Satisfaction	.571	< .001
Growth → Satisfaction	.208	.003
Satisfaction → NPS	.215	.006
Belong → NPS	.555	< .001

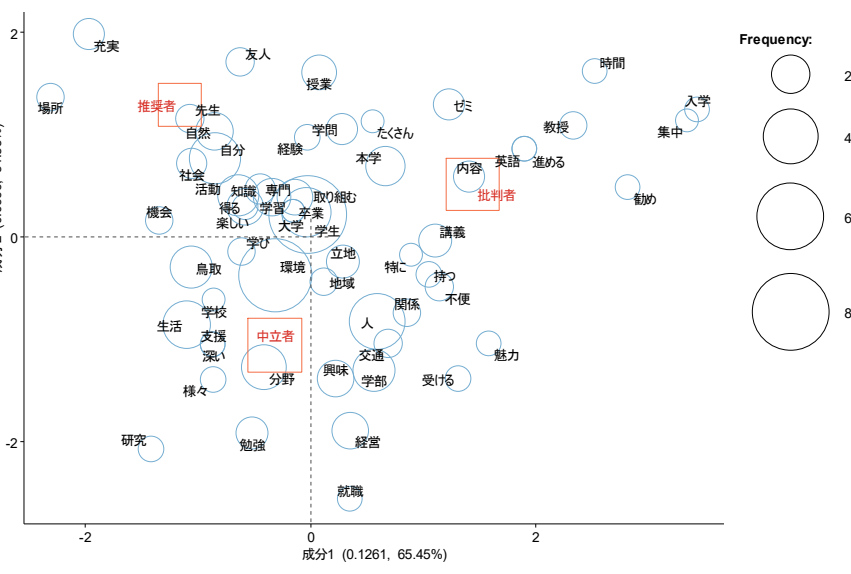
2026/7/17

28

10-3 対応分析から見る推奨度別の傾向

肯定的な意見は「少人数で教員・友人との距離が近い」「自然豊かな環境」「分野横断で幅広く学べる」、否定的な意見は「立地と交通の不便さ」「興味や目的が合う人を選ぶ」「専門性の浅さ」が目立った。「立地」は推奨者にも頻出しているが、立地は変えられないため、それを超えるメリットを学生が感じてもらうことが批判者、中立者を減らし、推奨者を増やすために必要であると考えられる。

Q44推奨理由の自由回答から抽出された特徴的なキーワードと、Q43の3つの分類（推奨者・中立者・批判者）の関係性を可視化



区分	頻出語	要約
推奨者	先生、友人	小規模大学ならではの教職員や友人との距離の近さが高評価
	専門、知識	環境と経営の両分野を横断的に学ぶことができ、幅広い専門知識を得られる。
	社会、活動、経験	フィールドワークなどの実践的な学外活動を通じて、学びを深めることができた。
中立者	就職、支援	就職や学修支援制度に満足している。
	分野、興味、研究	様々な分野を幅広く学べる一方で、広く浅い学修となり、人によって修得度合いに差が出てしまう。
	交通、立地	学修内容や支援制度には満足しているものの、交通アクセスの不便さや立地条件が推奨度を下げる。
批判者	交通、立地	通学の不便さや、立地の悪さという意見が多数であった。
	ゼミ、教授	全く興味のないゼミに配属となり残念だった、教員と上手に関われなかったとの意見があった。
	時間、英語	100分授業導入による懸念（特に英語の授業）の声があった。